

《平成26年度》

成友興業(株) (東京都あきる野市)

【事業名】

先導的な次世代型洗浄プラントの洗浄技術の検討

【事業の背景】

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催が決定し、東京湾岸エリアを中心として道路等インフラの整備・開発が更に加速すると予測される。これらにより発生する大量の建設泥土等産業廃棄物、埋設廃棄物及び環境基準に適合しない重金属類等を含む汚染土壌等の適正処分については大きな課題となっている。

成友興業(株)では、東京都が循環型社会への変革を推進することを目的に進めているスーパーエコタウン事業の公募に採択されており、技術開発を進めている。

【事業の概要】

本施設での受入対象物は、建設泥土、埋設廃棄物、ふるい下残渣等の建設系産業廃棄物として、これらの産業廃棄物はこれまで100%再資源化が困難であったが、 $30\mu\text{m}$ を分級点とする洗浄処理技術、マイクロバブルによる脱塩処理技術等、最新の洗浄処理技術を導入することでリサイクル製品の高品質化及び再資源化率100%を達成する次世代型洗浄プラントにより、大量発生が予測される建設泥土等の適正な処理・リサイクルに寄与できる。

本施設が事業としてスタートする前に、さらなる処理技術の高度化として、それぞれの処理対象物に適した洗浄方法について、以下の2点を検討し、実際の設備に反映させたいと考えている。

①受入対象物の性状分類による最適な洗浄方法の構築と実際の設備への落とし込み。

②実際の施設運用における受入対象物毎の洗浄方法に対するマニュアル化。

現在進めている東京大学（東京大学工学系研究科システム創生学専攻：藤田豊久教授、工学系研究科建築学専攻：北垣亮馬講師）との共同研究の中で、受入対象物の物理性状及び化学性状等を緻密に分類し、最適な洗浄方法について施設運用のマニュアル化を行いたいと考えている。

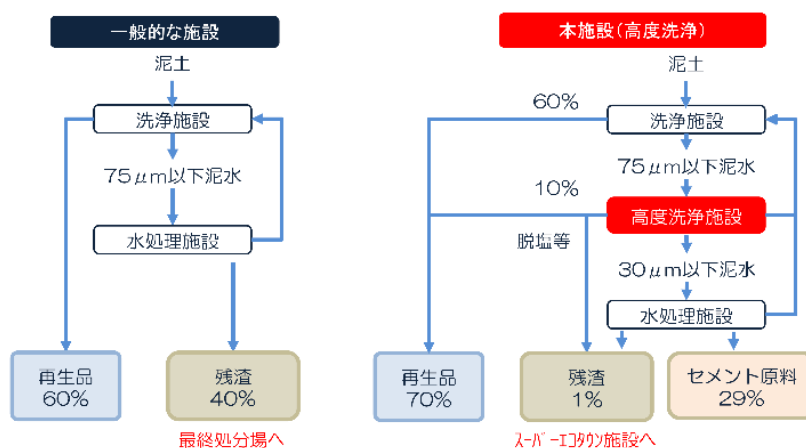


図 一般的な洗浄施設と本施設（高度洗浄施設）の違い